

平成30年度 藤野地区まちづくり懇談会結果報告

- 1 日 時 平成30年10月5日(金)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 藤野総合事務所 4階会議室
- 3 市側出席者 下仲副市長、中島緑区長、鈴木こども・若者未来局長、岩本経済部長、樋口環境共生部長、鈴木緑区副区長、樋口市民局次長
- 4 出席委員等 22人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	自然環境の保全と改善について
概 要	<p>まちづくり会議の環境部会では、自然環境の保全や改善をテーマとして、特に近年は鳥獣被害防止対策について課題解決に向けた議論を行っている。</p> <p>藤野地区は、都心に近い距離にありながら、豊かな自然と里山の風情を残す地域である。すばらしい自然環境を次世代に残していくため、鳥獣被害の課題の解決に向けた取組及び地域資源を活用して、更なる地域活性化につなげることについて懇談をしたい。</p>
課題事項1	ヤマビルによる被害の現状と対策について
概 要	<p>藤野地区では、近年ヤマビル被害が深刻化しており、南部から中央地域においても住民や観光客がヤマビルに刺される被害が起きている。ヤマビル被害は藤野地区の観光振興にも大きな影響を与えられるため、市で行っているヤマビル被害を防止するための取組や、他の自治体の取組について伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>市では、自治会等が行う環境整備活動に対する支援を、津久井地域鳥獣等被害対策協議会の対策事業として実施しており、平成29年度は22団体、平成30年度は21団体へ交付した。</p> <p>藤野・津久井の登山道等に注意喚起の看板の設置をしているほか、ヤマビルによる吸血被害、生息域拡散予防のため、忌避剤を備えたヤマビルポストを藤野地区の7箇所を含めた市内14箇所に設置している。</p> <p>ヤマビルの生態や吸血被害の対処方法として、「ヤマビル対策マニュアル」を作成し、地域の自治会や小中学校、保育所、保育園に配布している。</p> <p>他自治体では、本市と同様、環境整備活動費の補助、ヤマビル対策研修会、出没地域への忌避剤の配布等の対策を実施していると伺っている。(環境経済局)</p>
主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>補助を受けて対策を行うにも、地域で行うことのできる取組の範囲は限られてしまう。高齢化により草刈り等ができない方も多く、そのような場所をシカやイノシシが通り、人家の近くまで下りて来ている。</p> <p>ヤマビルは、シカやイノシシなどの野生動物にとりつき、野生動物が移動することにより生息地が拡大している。被害拡大を防止するために罾を仕掛けている地域もあるが、効果は十分に上がっていない。野生動物を単に駆除するだけでなく、人里から山の奥へ追いやるような環境整備を市でも考えられないか。</p>

回答	ヤマビル被害を根絶することは非常に難しく、市でも総合的な防除を継続していくことが重要であると認識しており、野生生物等の行動域の抑制のためには、広域的な鳥獣防護柵の設置が有効な対策であると考えている。取組については、地域のご協力をお願いしたい。（環境経済局）
質問要旨 (提案者)	野生生物等の行動域の拡大を食い止め、少しでも被害を減らすため、今後も市と協働で取り組むとともに、相談に乗っていただきたい。
回答	市としては、奥山の森林整備や混交林化を進めて、森林環境を整えることが、野生生物とのすみ分けを可能にするものと考えている。 平成30年度に策定を予定している相模原市鳥獣被害防止計画に基づき、環境整備活動の支援のほか、広域防護柵の設置についても検討している。防護柵設置にあたっては、場所の選定や設置後の維持管理を地域と協働で行うことが重要であると考えている。 相談については、本庁のほか、津久井地域経済課や藤野まちづくりセンターでも受け付けているため、ご意見をいただきながら、市と地域で協働して行っていきたいと考えている。（環境経済局）
質問要旨 (提案者)	防護柵を市内全地域に一度に設置することは困難だが、効果的な取組であると思うので、管理を地域で行うなどの協力をさせていただくことで、設置をお願いしたい。
回答	-
質問要旨	鳥獣被害やヤマビル被害に対して、地域住民はできる限りの対策を行っているが、なかなか効果を上げることができていない。住民生活の安全・安心や観光振興を図り、藤野地区が発展していくためにも、住民と行政との協働が必要だと思っている。また、ヤマビル対策に行政が積極的に取り組んでいただくことをお願いしたい。
回答	-

課題事項 2	ホタルの飛び交う環境づくりについて
概 要	<p>現在、佐野川地域を流れる沢井川では、ホタルをはじめとする水生生物の復活と地域住民の手による環境整備を進めていることにより、ホタルの飛び交う数は着実に増え、観賞に訪れる人々でにぎわいを増している。今後も、積極的に活動をPRしていきたい。</p> <p>地域では活動の更なる展開を模索しており、市の内外を問わず、ホタルが生息できる環境づくりに関する活動事例があれば伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>昨年度のまちづくり懇談会でのご提案をきっかけとして、昨年度の末、市ホタル条例で認定する3団体と、今年度新規で認定を予定している、上河原（かみがわら）たすきの会にお集まりいただき、第1回目の情報交換会を開催し、日ごろの活動、保全、保護等の情報の共有をし、団体間の交流を深めていただいた。</p> <p>情報交換会は今年度も開催する予定であり、市内でホタルの活動を行う他の団体もお招きすることを検討するとともに、市内外のホタルの保全活動団体の状況を調査し、情報提供していきたい。（環境経済局）</p>
主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>ホタルに関する活動により、沢井川の水質は着実に改善されており、平成30年度は、水の澄んだ瀬に生息するカジカを、地域活性化事業交付金を活用し復活させる計画を立てている。</p> <p>今後も沢井川の環境保全や改善に取り組むと共に、更なる地域活性化を図っていきたくて考えており、市と協働でできる取組があれば伺いたい。</p>
回答	<p>沢井川でのカジカの復活に向けて活動されていることは、環境保全の観点からも非常に大切であり、市としても大変ありがたい。</p> <p>カジカの生息の条件としては、河川の状況や餌の問題のほか、他の河川からカジカを持ち込み放流することによる生態系への影響を考慮し、慎重に進めていくことなどが求められる。</p> <p>保護活動は自然豊かな沢井川の保全に寄与するものであるため、市としても、カジカの復活に伴う生態系への影響をはじめとした、各種情報の提供や沢井川の保全活動の支援等により協力して参りたい。（環境経済局）</p> <p>皆様の環境保全に向けた取組については、心より感謝の意と敬意を表したい。また、佐野川地域のホタルをはじめとした美しい自然環境については、緑区の貴重な財産だと考えている。区としても、ホームページによる情報発信などを通じ、今後もより多くの方々にお越しいただけるように強く支援をしてまいります。（緑区役所）</p>
質問要旨	<p>沢井川は、地域の親睦を深めるイベントを行える場所としても、地域の貴重な財産であると考えている。今後も様々な事業を実施するとともに、藤野地区の様々な地域でホタルの飛び交う環境づくりを進めていきたい。地域での頑張りは微力なところもあるため、市のご支援、ご協力をお願いしたい。</p>
回答	-

テーマ 2	子育てがしやすい環境づくりについて
概要	<p>藤野地区では、住居が点在しており、かつ共働きの家庭も多いため、学校から帰宅しても一人で過ごさなければならない子どもが少なくない。</p> <p>放課後に児童が安心して過ごせる居場所づくりを目指して取組を進めていくために、地区内外の取組状況や支援について伺い、藤野の現状にあった子育て環境づくりについて懇談したい。</p>
課題事項 1	児童クラブの更なる充実について
概要	<p>現在、児童クラブの受け入れ対象は小学 3 年生までとなっているが、市内 3 箇所の児童クラブで 4 年生までの受け入れを試行していると聞く。その受け入れ状況や効果を伺いたい。</p>
市の取組等の説明	<p>平成 30 年度から 2 年間、年齢拡大のモデル実施として市内 3 区の各 1 箇所の児童クラブ（桂北・光が丘・もえぎ台）で 4 年生の受け入れを行っている。実施中に保護者へのアンケートや指導員との意見交換等を行い、高学年を受け入れるために必要な指導内容や施設環境等について、検証してまいりたい。</p> <p>小学 4 年生の受け入れ状況としては、桂北小学校は 6 名、光が丘小学校は夏休み期間中に 4 名、もえぎ台小学校は 5 名となっている。（こども・若者未来局）</p>
主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>昨年度のまちづくり懇談会では、児童クラブの基準として専用区画の面積要件を満たしているとの回答をいただいているが、今後、藤野地区でも 4 年生以上の受け入れを試行する場合、実際活動するにあたってはスペースが狭いと考える。更なるスペースの確保について、学校との調整は行っているのか伺うと共に、調整を行っている場合は、現在の進捗状況を伺いたい。</p>
回答	<p>藤野児童クラブの施設については、余裕教室等を活用した定員拡大に向け、必要な改修や備品の整理について、現在、藤野小学校と調整を進めている。調整が順調に進めば、受け入れ可能人数が現在の 48 名から 68 名まで可能になると考えている。（こども・若者未来局）</p>
質問要旨 (提案者)	<p>学校等との調整の結果、スペースの確保ができた場合、藤野地区での 4 年生以上の受け入れ試行は可能か。</p>
回答	<p>現在のモデル事業の検証を踏まえ、藤野地区での受け入れについては、施設の定員や高学年に適した施設環境などを考慮して検討してまいりたい。余裕があれば受け入れが可能になるが、現段階では現行の運営での児童クラブ室の拡大を学校と調整しているところであるため、4 年生以上の受入の試行ができるとはお答えできない。（こども・若者未来局）</p>
質問要旨	<p>藤野地区では、児童クラブにおいて 4 年生以上の受け入れを希望する家庭も多くある。児童クラブも含めた子どもの居場所づくりについて、今後も市と情報共有しながら取り組んでいきたい。また、地域の高齢者が今までの人生経験や能力を生かし、子育て事業の担い手として貢献できる場をあわせて考えていきたい。</p>
回答	-

課題事項2	子どもの居場所づくりについて
概要	昨年度のまちづくり懇談会の中で、津久井中央児童室のモデル事業の実施状況を検証し、地域に合った事業の実施方法について検討すると伺ったが、現時点の検証結果と今後の運営について伺いたい。
市の取組等の説明	津久井中央児童室事業については、利用者は増えている状況にあるが、地理的に利用者の範囲が広がらないといった課題もある。今後も効果を検証しながら、地域特性に合った事業の実施方法や、利用者の範囲拡大について検討していきたい。また、子どもにとって、学校の先生以外の大人など多世代との交流の促進にもつながっていると捉えている。（こども・若者未来局）
主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	藤野地区では、地域の子どもへの読書普及活動を行っている団体と連携して、移動型の子どもの居場所づくりについて検討している。市内外を問わず、行政と地域団体で連携して子どもの居場所づくり事業を行っている事例はあるのか、また、それに対する市からの支援はあるのか伺いたい。
回答	子どもの居場所づくりに向け、平成30年度から市社会福祉協議会との連携による総合相談窓口の設置や、子どもの居場所づくりセミナーの開催など活動の支援を行うとともに、関係団体と情報交換会を開催し、連携を図りながら、取組を推進している。 支援としては、市の地域活性化事業交付金や市社会福祉協議会の子ども健やか育成事業等を活用して活動している団体もある。（こども・若者未来局）
質問要旨 (提案者)	移動図書館事業については、まずは移動図書館を知ってもらうため、地区内の学校や幼稚園、保育園へ移動図書館車で出向き、紹介をしている。まちづくり会議の子育て部会としては、地域の団体と連携し、多様な子どもの居場所づくりに取り組んでいきたいと考えているため、市にも協力をお願いしたい。
回答	-

その他質疑等	
質問要旨	<p>本年の6月に起きた大阪北部地震において、ブロック塀が倒れて児童が死亡した事故があったが、藤野地区には、子どもが行動する範囲において、ブロック塀以外にも危険な箇所が多くある。そのような危険箇所の状況について、市にも現場を知っていただき、改善を図っていただきたい。子どもの居場所づくりの取組は安全確保が大前提であり、市と情報共有をしながら、子どもの安全を考えた環境づくりを目指していきたいので、ご協力をお願いしたい。</p>
回答	-
質問要旨	<p>子育て部会では、子育てしやすい環境づくりを目指した取組の一つとして、地区内のあいさつ運動の啓発を積極的に行っている。藤野では、昭和56年の旧藤野町議会におけるあいさつ運動都市宣言の議決により、あいさつ運動がスタートしている。あいさつ運動は子どもたちと地域との交流になっているほか、安心・安全な地域づくりにもつながると考えている。</p> <p>あいさつ運動の更なる発展のために、相模原市内で積極的に活動している具体的な事例があれば、後日紹介していただきたい。また、市のご支援等をいただくとありがたい。</p>
回答	-